

中 学 校

平 成 5 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

美 術

東 京 都 教 育 委 員 会

平成 5 年 度

教 育 研 究 員 名 簿 （ 美 術 ）

区市町村名	学 校 名	氏 名
台 東	忍 岡 中 学 校	茜 谷 佳世子
墨 田	錦 糸 中 学 校	正 木 真 一
品 川	荏 原 第 六 中 学 校	長 井 哲 郎
目 黒	第 六 中 学 校	竹 内 宗 男
中 野	北 中 野 中 学 校	◎ 野 中 洋 介
杉 並	荻 窪 中 学 校	菅 原 賢 一
葛 飾	綾 瀬 中 学 校	平 野 郁 夫
八 王 子	櫛 田 中 学 校	○ 北 村 泰 男
東 久 留 米	東 中 学 校	蔵 本 保 広
秋 川	西 中 学 校	竹 田 美 哉
八 丈	末 吉 中 学 校	深 澤 秀二郎

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 大 島 克 己

目 次

I 主題設定の理由	2
II 研究の方法	3
III 事例研究	
・その1・ 絵画 「夢のなかで出会った花」	4
・その2・ 彫刻 「こんな力のつく仮面」一張り子の手法を使った仮面作りー ...	9
・その3・ デザイン 平面構成 「～な空間を描きだそう」	14
・その4・ デザイン からくり立体（5つの宇宙が生れたよ）	17
・その5・ 工芸 「一枚の板材から」	20
IV 研究のまとめ	24
V 今後の課題	24

生徒一人一人に創造の喜びを味わわせる授業の工夫
ーイメージをふくらませる指導を通してー

Ⅰ 主題設定の理由

中学校美術の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の能力を伸ばすとともに、創造の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。」ことにある。心身の著しい成長を遂げる青年前期にある生徒にとって、美術の授業を通して、多くの美的体験を味わわせ、造形的な創造活動の能力を伸ばし、生徒一人一人の内面を充実させ、豊かな人間性を養うことは、特に大切なことである。

美術の授業における指導の過程は大きくいて、「イメージを出す」、「イメージを基に制作する」、「鑑賞（作品によるコミュニケーション）」の各過程に分かれる。それぞれの指導の過程の中で、学ぶことの楽しさや成就感を体得させる指導の工夫が生徒一人一人に創造活動の喜びを味わわせる基本となる。

創造の喜びとは、精神の自由な働きと、感性と知性とが一体化した自己実現の喜びであり、生徒が主体的に活動に取り組むことによって一層深まるものである。したがって、その原動力となるものは、豊かな美的体験に育まれた何よりも自由な「イメージ」であろう。

「イメージ」は、直接見えないものを心に思い浮かべ、具体化していく活動である。過去の経験を想起したり、空想したりすることはもちろんのこと、観察することによってもイメージを働かせることにより一層表現の工夫ができるようになるものである。

しかし、「イメージ」は、制約を受けない自由な発想を、生徒一人一人の特性や表現技能、技法といった制約の中で具現化するという矛盾した要素を含んでいる。生徒はこの矛盾に悩み、時として制作を放棄したりやる気を失ってしまうこともある。だからこそ、この「イメージを導き出す」段階での教師の的確な指導や援助が、生徒一人一人の今後の制作活動の成否を決定するといっても過言ではない。

そこで、本研究においては、この「イメージをふくらませる指導」に焦点をあて、イメージの構造化や造形的な創造活動の能力を伸ばすための指導の工夫を、具体的な美術の授業実践を通して研究を進めることにした。

Ⅱ 研究の方法

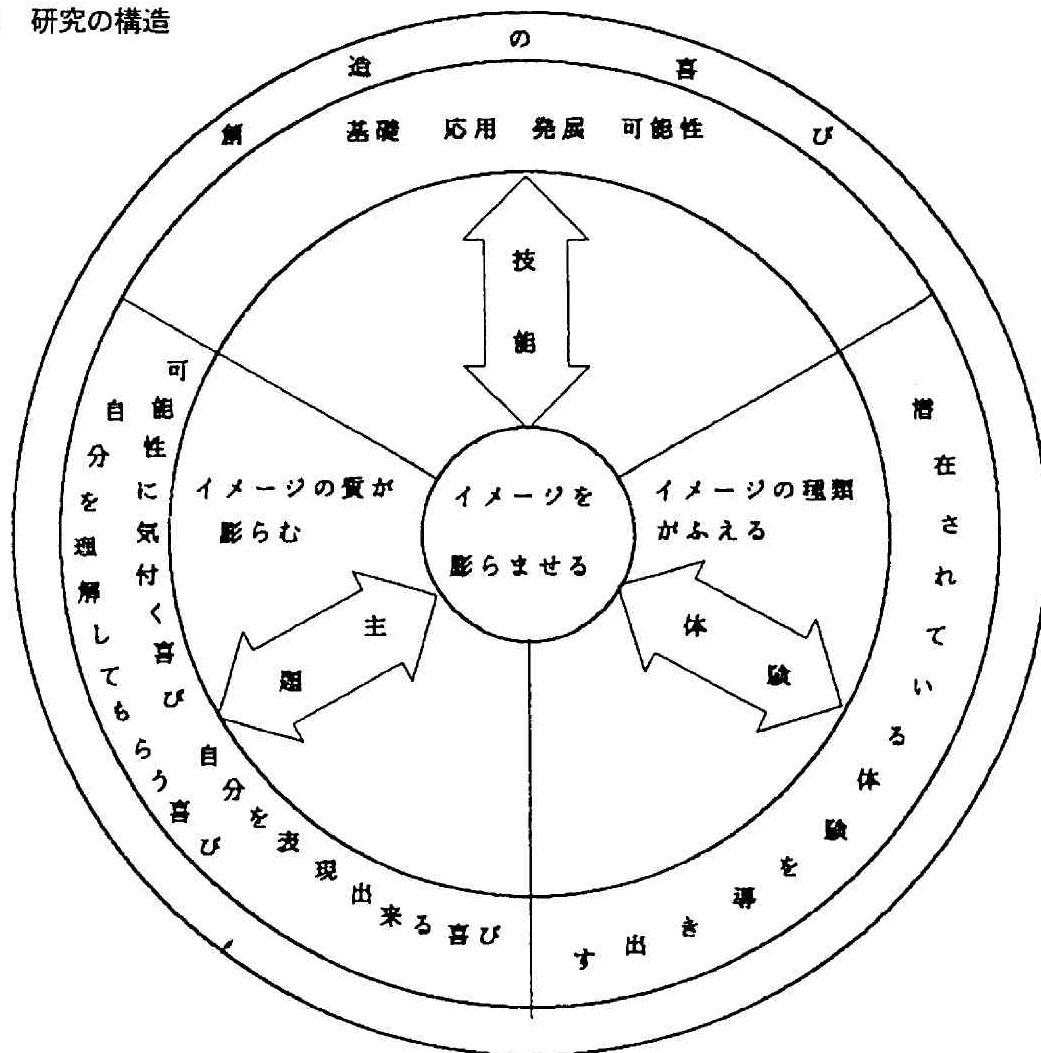
1 研究の仮説

美術の授業を通して、意図的にイメージをふくらませる指導を工夫することにより、生徒一人一人に創造の喜びを味わわせることができる。

2 研究の視点

- (1) イメージの各要素に働きかける指導の工夫
- (2) イメージをふくらませる指導の工夫
- (3) イメージを深化・統合する指導の工夫

3 研究の構造



Ⅲ 事例研究・その1

題材名 「夢のなかで出会った花」 2年生（20時間）

1 題材設定の理由

この題材の中で花を設定したのは、花がいろいろな自然物のなかでも、我々人間にとって比較的親しみのもてる題材のためである。花の種類は、桜や菜の花、バラ、チューリップなど実に多い。中には、この世のものとは思えないような不思議な美しさや不気味さをもつ花もある。このような花の特徴は、現実には存在しない想像の世界を生徒に表現させるのに適したモチーフであると考ええる。

表現の方法としては、個人の技能の差を少なくし、かつイメージを膨らませる試みとして、コラージュ、スパッタリング、ドリッピング、デカルコマニーなど、誰もが簡単に取り組める技法を利用させることにした。そして、一人一人の生徒が自分自身の感性と対話しながらイメージを再構成し、満足のできる表現にまで高めることをねらいとした。

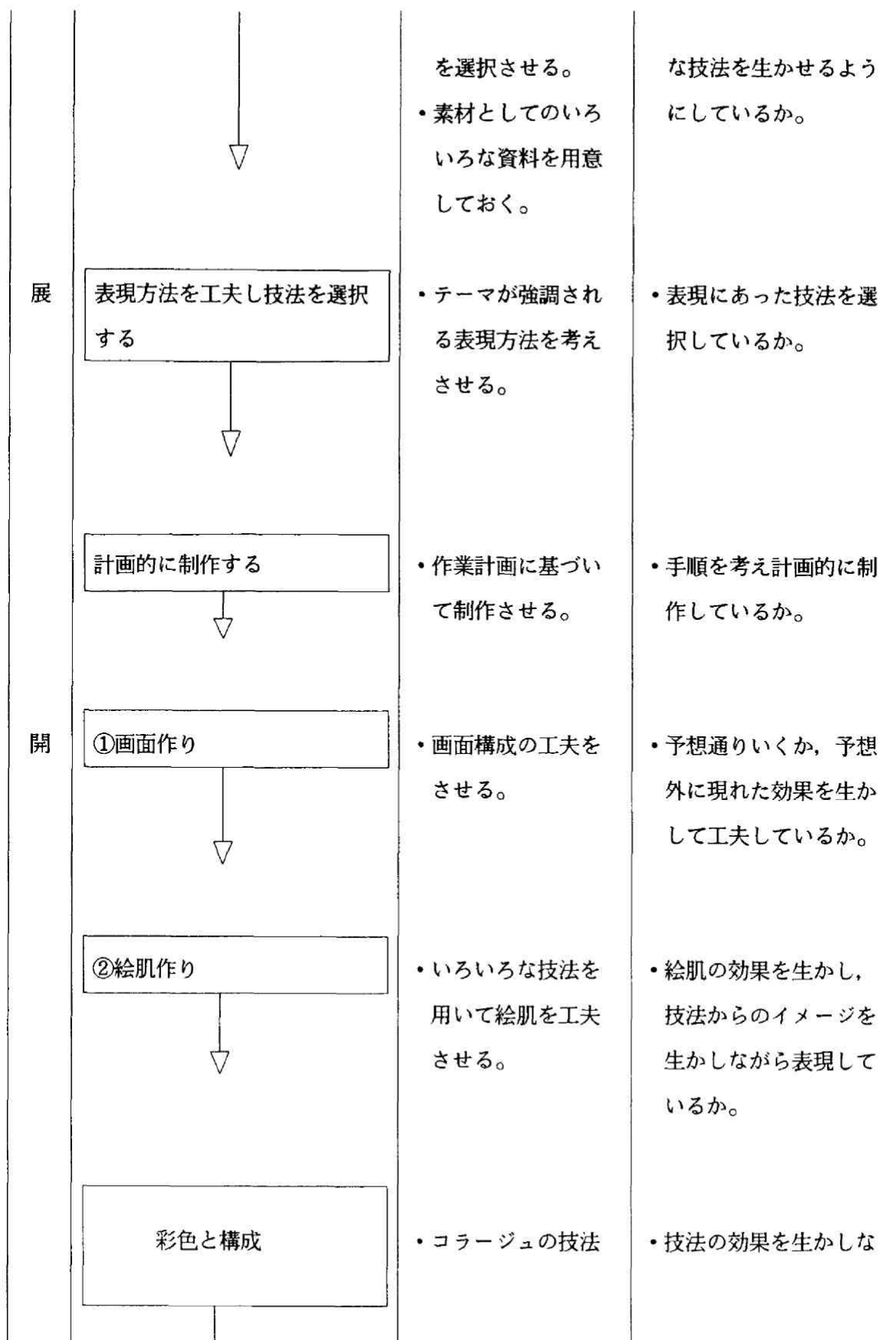
2 指導のねらい

- (1) 具体的な花という形を借りて、自分の考えや思いを表現させる。
- (2) コラージュ、スパッタリング、ドリッピング、デカルコマニー、マーブリングなどから出来る模様のイメージを花に置き換えて表現させる。
- (3) 他の生徒の作品を鑑賞することにより、自分の気づかなかったイメージを体験させる。

3 指導計画

	学 習 の 流 れ	指 導 の 要 点	評 価 の 観 点
導	いろいろな技法をためしてみ る 	・モダンテクニックの学習 ・どのような材料と技法の工夫があるか見つけさせる。	・モダンテクニックをマスターしたか。 （モダンテクニックの技法を理解できたか）

入	作品を鑑賞する ↓ 花の資料を収集する ↓	• 生徒作品，ダリ，エルンスト，キリコ等の作品の例示。 • 新しい技法が使われている作品を鑑賞させる。 • 資料を持ってこさせる。	• 自分なりの感想を「感想カード」に記入できたか。 • たくさんの資料を収集することができたか。
展 開	気に入った花の資料を何枚か選ぶ ↓ 色鉛筆で着彩する ↓ スケッチをもとに構想を練る ↓ 主題にあった技法を考える	• 花の形，色，雰囲気から受ける印象を話し合う。 • 自分の考えを明確にする。 • 花の特徴をつかませる。 • 花の特徴を生かしながら，構想を練る。 • 主題にあった技法	• 意見交換が活発にできたか。 • 花から受けた自分なりのイメージをもつことができたか。 • 着彩することにより，いろいろな花の表現方法を考えているか。 • 自分の気持ちを表現しているか。 • 素材としてのいろいろ



		を取り入れながら、 いろいろな画材で 彩色する。	がら絵の主題を強めて いるか。 ・コラージュと彩色を使っ て、イメージをより整 理し、自分のイメージ に近づけることができ たか。
ま と め	鑑賞する	・友達の作品を解説 文と共に鑑賞させ、 その発表やテーマ を理解した上で、 それぞれの表現の よさを味わわせる。	・きちんと解説文や感想 をカードに記入してい るか。 ・作品の完成においてど の程度、達成感を得ら れたか。

4 評価

- (1) 技法的な実験段階にとどまらず、そこからイメージを発展させて創造力豊かに幻想的な世界を作り上げられたか。
- (2) 独自のイメージを最後まで追求できたか。
- (3) 主題をもとに、材料、技法の効果など十分考えて計画的に制作できたか。

○準備するもの

*教師 参考資料（ダリ,エルンスト,キリコ,クレー, などの画集）

画用紙, 油性絵の具, 色紙, ちらし金網, 歯ブラシ, はさみ, のり, バットなど

*生徒 教科書, 水彩用具一式, 鉛筆, 色鉛筆, コンパス, 写真類など。

5 感想カード

感想カード

(1) 現代美術の作品の中で、自分の気に入ったものをあげてみよう。

* どんなところが気に入りましたか

作品名 () 作者名 ()

感想

(2) 花の雰囲気などのような点を強調し、自分の花にしましたか。

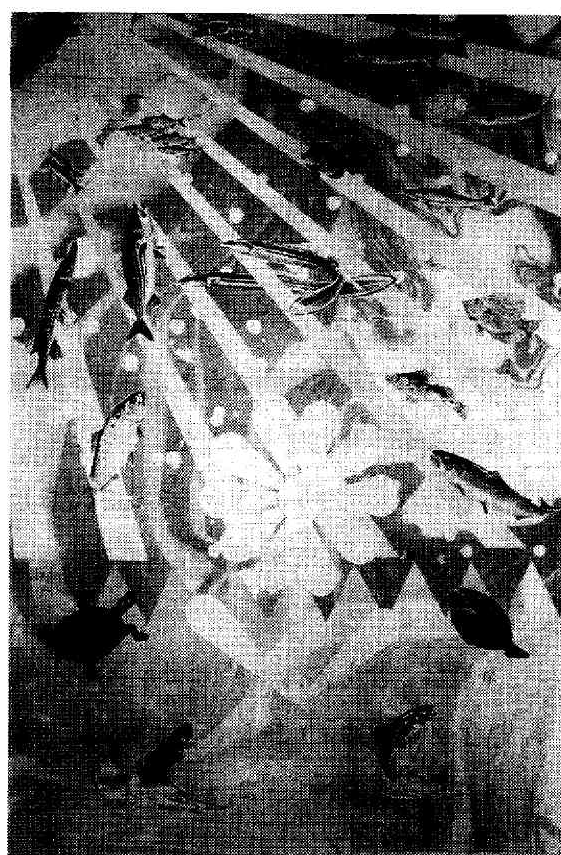
(3) 各技法の中で、苦労した点、興味の持てた技法などについて書いてみよう。

(4) 自分の作品の色やアイデアで気にいっていることをなるべく詳しく書いてみよう。

(5) 友達の作品を見て、すばらしいと思ったこと、工夫してある点などを書いてみよう。

(6) 自分の作品に対する考えを書いて見よう。

6 授業風景及び生徒作品例



事例研究・その2

題材名

「こんなに力のつく仮面」 ー張り子の手法を使った仮面作りー 1年（18時間）

1 題材設定の理由

仮面の機能は変身である。言い換えれば、我々が生きている現実との異化作用である。このことは、実際に仮面をかぶってみれば、強く意識するしないにかかわらず誰もが経験できることである。この仮面のもつ機能を、生徒のイメージを引き出すということを中心に、本題材では、次の三つの視点からとらえることにした。

1つ目は、仮面のもつ独特の神秘性である。つまり、生徒の内面にある欲求と仮面とを結びつけてやれば、イメージをとらえるということに関して、子供の中に無理が生じないと考えたからである。

2つ目は、世界の色々な仮面が、何かを語りかけてくるような力を持っているということである。世界の仮面を紹介することによって触発され、イメージがふくらむことにつながると考えたからである。

3つ目は、油土を土台にした張り子は、生徒が発想する仮面のさまざまな形に対応でき、表現に関する技術も比較的容易であると考えたからである。

以上の理由をふまえて、特にアイデアスケッチを行う構想の段階までのイメージのふくらませ方に重点を置いて授業研究を進めることにした。

2 指導のねらい

- (1) 資料や参考作品から触発されたことをメモしたりスケッチしたりする力をつける。
- (2) アイデアスケッチをたくさん描き、粘土でもアイデアスケッチをすることによって自分のイメージを鮮明にし、作品を見通しを持って計画的に制作する力をつける。
- (3) 素材や材料の特性を生かした表現ができる力をつける。

3 準備

教 師 … 参考作品、油土、粘土べら、木工ボンド、ラップ、樹脂粘土、粘土板、鏡
厚紙（粘土をつける土台となるものを印刷したもの）、セロハンテープなど
生 徒 … 寒冷紗、新聞紙、はさみ、カッターナイフ、色鉛筆、ポスターカラーセット

4 指導計画

《学習の流れ》

《学 習 活 動》

《評価のポイント》

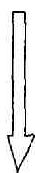
〈1〉導入

参考作品の鑑賞
と制作のねらい
を理解する。

(1h)

- 実物の参考作品を見て張り子の特長を知る。
- 世界の仮面をビデオで鑑賞し、感じたことや気づいたことをメモしたりスケッチしたりする。

★参考作品を見て、特徴をとらえたスケッチやメモができたか。



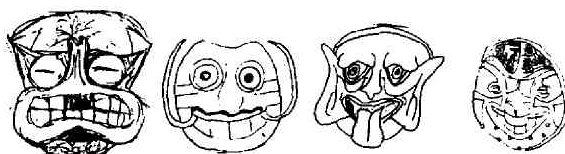
〈2〉構想

色々な表情をス
ケッチする。

(2h)

- 変身したいものをたくさん書き出す。
- 上記の書き出したものに合う表情を友達に色々してもらいそれをスケッチする。

★自分が変身したいものに合う表情を検討し、スケッチがたくさんできたか。



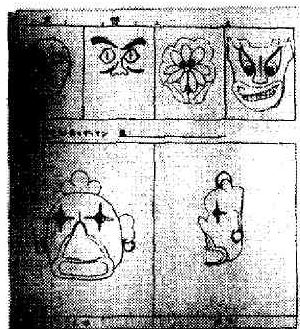
〈3〉構想

鉛筆と粘土によ
るアイデアスケ
ッチをする。

(3h)

- スケッチをもとにお面のアイデアスケッチを描く。4分の1程度の大きさで油粘土を使ってアイデアスケッチをする。

★鉛筆や粘土によるアイデアスケッチがたくさんできたか。



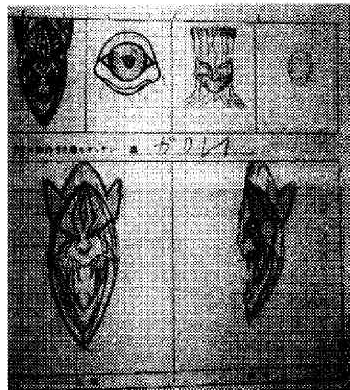
〈4〉構想

下絵の完成

(1h)

○側面図も描き、立体としてとらえる。

○実物大の下絵を描き彩色の計画をたてる。



★立体的に表現するために、正面図、側面図が描けたか。自分が表現したい仮面にあう色づけが考えられたか。



〈5〉制作

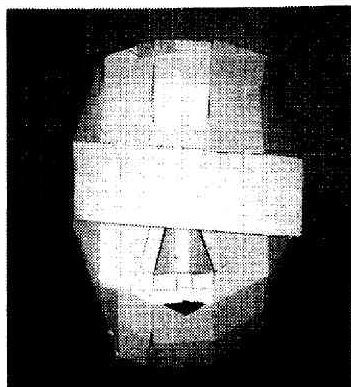
芯づくり

型づくり

(4h)

○厚紙でお面の芯を作る。

○下絵を参考にして、芯に油粘土をつけて型を作る。



★下絵を生かした型ができたか。



〈6〉制作

樹脂粘土をしみ込ませた寒冷紗の貼り込み

(2h)

○粘土の表面に樹脂粘土との剥離をよくするためにラップを密着させてかける。

○水に溶いてどろどろにした樹脂粘土を名刺大に切った寒冷紗にしみ込ませ型に貼り込む。



★粘土の表面にラップを密着させてかけることができたか。

★寒冷紗を重なりあうように貼り込むことができたか。

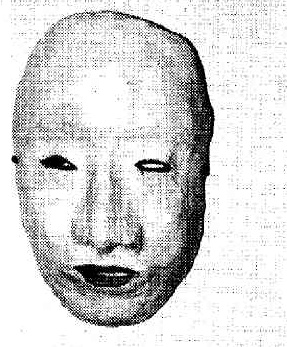
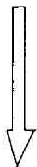


〈7〉制作

型抜き (2h)

○型抜きしたものに樹脂粘土で細部を表情が生きようモデリングする。

★表情を生かしたモデリングが行われたか。

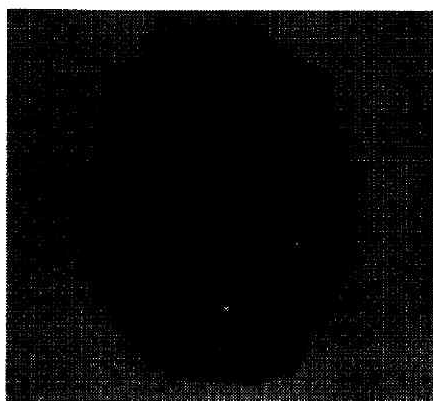
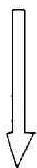


〈8〉制作

彩色 (1h)

○下絵を参考にオーナメントカラーとポスターカラーで彩色する。

★下絵の彩色計画をもとにイメージと合致した効果的な配色ができたか。



〈9〉

まとめ鑑賞

(2h)

○お面をかぶりポーズをつけて写真撮影。
○感想カードに写真を貼り、記入する。
○教室に展示し鑑賞し合い感想を述べ合う。

★自他の作品について活発に意見が述べられたか。



〔作品例〕



事例研究・その3

題材名

平面構成 「～な空間を描きだそう」2年(20時間)

1 題材設定の理由

従来、平面構成というといくつかの作図法に基づき、それを自分なりに展開する段階で作品化される場合が多いと思われる。そうした作品をながめてみた時、もちろん展開する段階での発想に驚かされる作品もあるが、どうしても全体的に生徒がもっていると考えられる伸び伸びとした自由な発想があまり伝わってこないように思う。そこで、指導方法を工夫することにより、平面構成の本来もっている構成美の要素を崩すことなく、生徒の伸び伸びとした自由な発想を生かした作品を創り出したいと考え、本題材を設定した。

2 指導のねらい

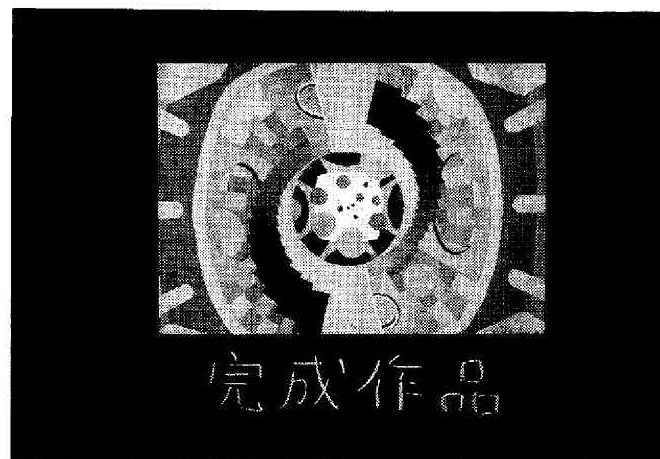
- ・すでに学習した平面構成の基本パターンを4つの視点から展開させる。
- ・基本パターンの展開の面白さを発見し、「～な空間」というテーマのもとに更にイメージを膨らませた独自性のある作品を制作させる。

学 習 の 流 れ	指 導 の 要 点	評 価 の 観 点
既に学習した平面構成の復習 ↓ 4つの視点からの基本パターンの展開 No. - 1 ↓	・自作、及びOHPの画像で平面構成の基本パターンの構成美の要素を確認する。 ・1, 歪める。2, 削除する。3, 突出させる。4, 追加するといった四つの視点からの展開例をOHPで例示する。 ・実際に自分で各視点からラフスケッチをする。	・構成美の要素が理解できているか。 ・4つの視点から基本パターンを展開することができたかどうか。

「～な空間」 のイメージ化	・考案するヒントとなる参考資料を映像化し、「～な」にあたる形容詞を各自記録し、イメージを活性化する。	・「～な」にあたる形容詞を記録することができたか。
↓		
資料集め	・「～な」形容詞を想定し、各自、資料を集めさせる。	・切り抜きの資料を数多く集めることができたか。
↓		
平面構成の基本 パターンの展開 Na-2	・資料を集めている期間中に再度、平面構成の展開のラフスケッチをし、イメージをより深める。 ・平面構成の展開が独自性のある作品制作の糸口であることを気づかせる。	・Na-1のラフスケッチを展開できたか。
↓		
資料のグルーピング	・平面構成の展開と結びつける考え方を参考資料で理解させる。	・資料を整理することができたか。
↓		
アイデアスケッチ Na-1	・グルーピングした資料と平面構成を展開したラフスケッチをもとに構成美の要素を生かしたアイデアスケッチをする。	・構成美の要素を取り入れることができたか。
↓		
アイデアスケッチの鑑賞	・鑑賞しあうことによりイメージの活性化を図る。	・「～な」イメージが表現できたか。
↓		
アイデアスケッチ Na-2	・イメージを発展させる。	・イメージが発展できたか。
↓		
下描き	・B3版のケント紙にアイデアスケッチ	・バランスよい画面構成

↓ 着彩 ↓ 完成 ↓ 鑑賞	をもとに下描きをする。 ・色彩学習で学んだことを応用させる ・ポスターカラーの練り方，筆の使い方などを再度確認をし，丁寧に作品を仕上げる。 ・完成した作品を掲示し鑑賞し，鑑賞カードに記入する。	ができたか。 ・丁寧にできたか。 ・色彩学習が活かされているか。 ・丁寧に仕上げられたか。 ・お互いの作品のよさを発見するとともに自分の作品に心に残る感想を抱けたか。
--	---	---

作品例



事例研究・その4

題材名

からくり立体（5つの宇宙が生れたよ） 1年生（15時間）

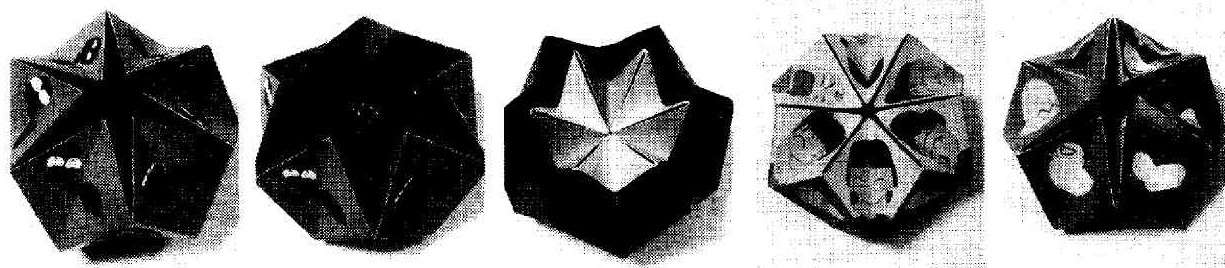
1 題材設定の理由

私たちの生活の中には、アンバランスな動きを楽しむ「モビール」「やじろべえ」「積み木」「はめ絵パズル」のように分解や組み立てで構築の要素を含むもの、また、「ねんねんだいこ」のように回転や音を楽しむものなどの伝統玩具があって心をなごませてくれる。それらの玩具は、自分で夢中になって動かしたり、あやしてもらったりしたときに私たちの潜在的な体験としてイメージの源をなしている。これらの造形物に共通している心は、冒険心、好奇心、遊び心であり、問題解決の能力や、創造力の源をなすものである。この要素はデザイン、工芸といった授業のなかで、もっともっと取り上げられなければならない。学習指導要領の1学年目標(1)「造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。」にもあてはまる題材として、中心軸をもとに、回転する立体を考えた。1枚の紙から生徒一人一人のひらめきで（主題）、展開し回転可能な立体を（技能）、紙を折ったり切ったり（体験）することでイメージが結合され、創造する喜びにふくらんでいけたらと考える。

2 指導のねらい

- ・模型を創り、中心軸をもとに転回し変化する原理を発見させる。
- ・表現したいイメージを動く仕組みの中にうまく取り入れ、オリジナルな作品を創りださせる。
- ・友達と交換しあい、お互いの作品を鑑賞しあうことができる能力を養う。

(図)



3 指導計画

学 習 の 流 れ	指 導 の 要 点	評 価 の 観 点
動く造形物について潜在体験をよびおこす ↓ 5回転する立体の仕組みを理解する ↓ 作品の模型を作り、その変化に合ったアニメーションや色面構成を考える。 発想	• 生活の中に生きている動きをもった作品、おもちゃについて考えさせ、自己観察カードに記入して、発表させる。 • 試作品を操作してみせながら発問する。 • どういう仕組みで動いていますか。 • 変化にどんなきまりがありますか。 （自分の創りたい表現イメージと動く仕組みとを結び付ける構想、およびその確かめ、アドバイス） • 例を示す。	• 自己考察カードに自分の考えを表現できたか。 • 動く仕組みを理解し、この原理を使って、自分がどのようなものを創りたいか、イメージを明確にすることができたか。 • 模型を創り、構想を練ることができたか。 • 変化の数と、その場面との対応、動いた時の造形効果などを確かめることができたか • アニメーション用



制作



制作の確かめ

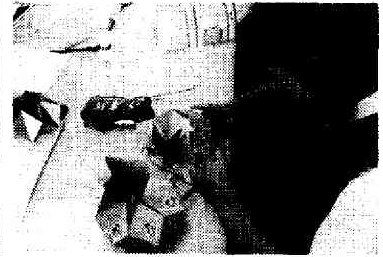
まとめ

(具象的なイメージ、例えば、人が歩きだす。花が開き、散る、など。抽象的なイメージ、例えば、感情、味覚、明暗、静動、季節感、など。)

- B全のケント紙(38センチ × 54センチ)から2つの作品を作る。

- 出来上がった作品を実際に動かしてみてもその効果を確認する。
- 自己考察カードを使って自分の思考の足跡をたどり発表する。

色面構成用の2つを制作できたか。



- 作品を操作することができ、友達の作品も鑑賞できたか。
- 自己考察カードを活用できたか。

自己考察カード例

自己考察カード		A面 アニメーション作品 について
図解する立体 1年()組 ()番 氏名() 1 この作品のほかに、日常生活の中で動く造形物で興味をひいたものがあれば、だしてみて下さい 2 どうしてこの立体は図解できると思いますか? 次の事を考えながら少しずつイメージをみくらませましょう 1) 面と面とのつながりは、どうやってつながっていますか? 2) のりづけをすることで1枚の紙だったものがどうなりましたか? 3) 図解すると中心の部分には1つの角度が45度の三角形が()個集まっています。そうすると、合計()度になります。 360度では()ですが、()度-()度=()度 この角度の余りが平面を()にする角度を生み、また図解を可能にする余地を生むのです。	あなたは、どんなテーマでアニメーションを考えましたか? 構の移り変わり5つの面で工夫したこと 縦(開いていく場面)の移り変わり5つの面で工夫したこと 実際に動いてみて自分のイメージと合いましたか? B面 色面構成について 上記の事などについて感想をかいてください その他の感想	

事例研究・その5

題材名

工芸「一枚の板材から」 1年生（25時間）

1 題材設定の理由

一枚の板材を前にして、木取り、切断や接合、木彫の表現、ヤスリがけや塗装等の表面処理などからイメージをふくらませる行為は、美的直感力や想像力等の創造活動の基礎的かつ主要な能力である。今回は、材料を無駄なく生かすことを考え、方法や工夫を含めた制作過程を総合的にイメージする力を育てることに主眼をおいた。

最初の制作導入段階で生徒が思い浮かべることは、完成した作品を家庭の中で「どのように活用できるか」という想像と、「どのように活用したいか」という願望だと考える。家庭の中のどの場所に、どのような楽しい形の作品を、誰のために制作したいのかを想定させることで、イメージを実体化させる手がかりとしたい。

以上のような点から、一枚の板材の特性を十分に生かすという条件の中で自由に発想させ、制作の可能性とイメージをふくらませ、創作の意欲を高め、創造の喜びと完成作品を活用する喜びを味わわせることを意図して、本題材を設定した。

2 指導のねらい

- ・「一枚の板材」という制約の中で、形（機能性・装飾性）へのイメージをふくらませる能力と態度を養う。
- ・豊かな発想から生まれてくるアイデアを大切にし、考えを練ったり、工夫することの楽しさや喜びを味わわせる。
- ・工芸の基本条件（用と美）を理解させ、発想力、構想力、計画力、制作力を育てる。
- ・構想段階における自由な発想の展開と、自己のイメージを具体化していく制作過程を通して、自己と素材の可能性を最大限に発揮させ、自己実現に向かう創造的態度を養う。
- ・制作活動を通して、用具の正しい使い方、技法等を習得させるとともに表現の技能を高め、制作する喜びを味わわせる。

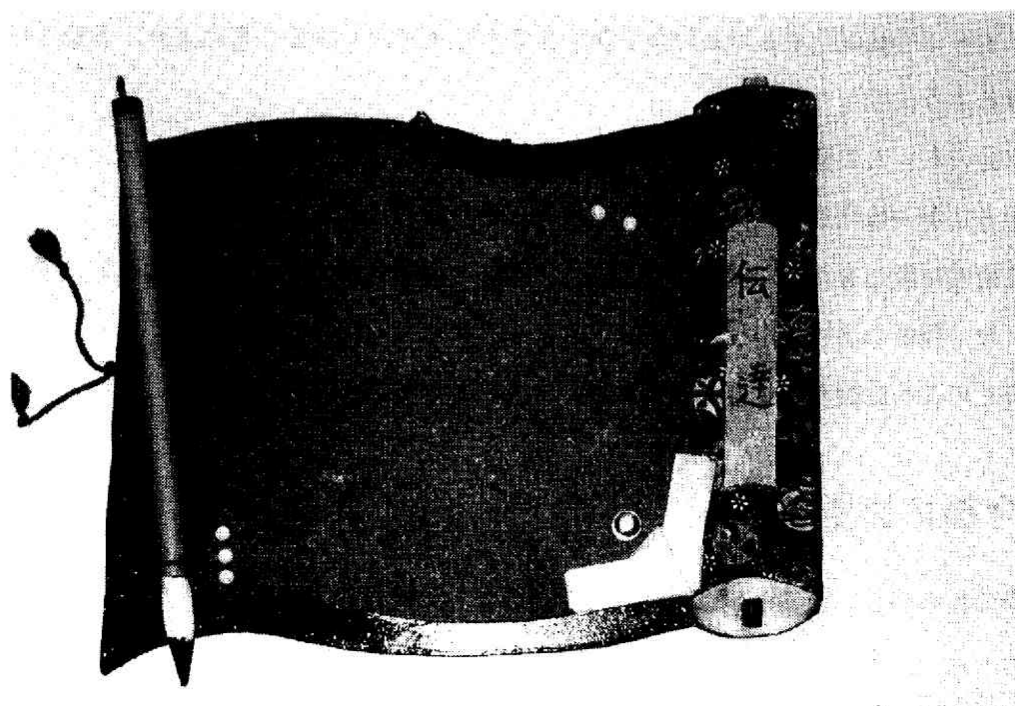
3 指導計画

学 習 の 流 れ	指 導 の 要 点	具体的評価の観点
木でできた工芸作品を持ち寄らせる。	アイディアや技法の工夫について意見を出させる。	活発に発言できたか。
彫りや技法の説明	- 彫刻の技法 - 糸のこの使用法 - 彫刻刀の使用法	- 技法の理解ができたか。 - 技法などを通して作りたいもののイメージが広がったか。
身近な工芸作品と生活との関係の理解	- 木製品のよさ - 自分と工芸とのかかわり - 材料の性質 - 使いやすさの条件	用と美についての関係の理解ができたか。
- 制作の手順を考える。 - アイディアスケッチ	「1枚の板材」でできるものを考えさせる。 - アイディアスケッチを何枚も描かせる。 - 自由な発想を大切にする。 - 材料の材質感、機能性、装飾性について考えさせる。	- 用途や飾る場所を考えてスケッチすることができたか。 - 自由な発想で描いているか。 - アイディアスケッチをたくさん描くことができたか。

学 習 の 流 れ	指 導 の 要 点	具体的評価の観点
• デザインの決定	• いくつかのアイディア スケッチの中から、計 画性、独自性に配慮し デザインを決定させる。	• イメージを広げながら 構想をまとめていく力 があるか。
• 木取り • 製作	• 木目の方向や材料の適切な 使い方に留意して、木取り をさせる。 • イメージどおりに切ったり 削ったり、付け足したり、 組み立てたりしてているか 個別指導にも配慮する。 • 全体のイメージを考えさせ て制作させる。 • 新しい表現方法を積極的に 取り入れさせる。	• 無駄のない手順、方法 を考えて木取りをし、 制作しているか。 • 技法に工夫が見られる か。
• 仕上げ	• 素地を調整する。 • 必要なものは、 塗装をし、磨き をかける。	• 木のもつ美しさが最大 限に生かされているか。 • 機能的なものを意図し た生徒は、それが生か されているか。 • 自分のイメージどおり の作品ができたか。

学 習 の 流 れ	指 導 の 要 点	具体的評価の観点
・作品鑑賞	・作品のねらいやアイデア，制作の工夫などについて発表させ，自分や友達の作品のアイデアのよさや美しさを認め合う。	・作品のよさ，美しさを感じ取り，整理して発表できたか。 ・友達の作品に適切なアドバイスができたか。 ・作品を通して，創造する喜びが味わえたか。 ・自他の作品を大事にし，飾る喜びを味わうことができたか。

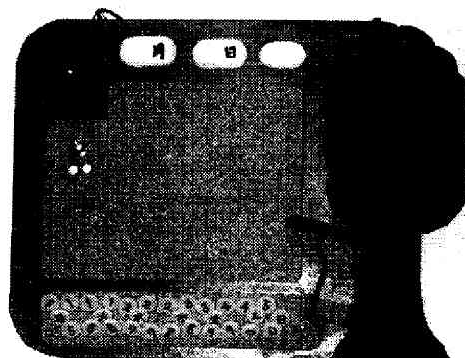
作品例－1



作品例－2



作品例－3



IV 研究のまとめ

- 1 イメージを具現化するためのアイディアスケッチを多くすることにより、多様な作品ができるようになった。
- 2 生徒一人一人の個性に応じたいろいろな技法を試させることにより、自分のイメージと表現方法が一体化し、生徒が授業に意欲的に取り組むようになった。
- 3 芸術性に重点をおいた授業から、生徒の興味・関心に重点をおいた授業へ転換することにより、授業の活性化が図れた。
- 4 多くの美的体験をさせることにより、イメージの陶冶が図れた。

V 今後の課題

- ・授業のねらいと、評価の観点の明確化をどのように統合していくか。
- ・生徒一人一人のイメージを生かす表現技法や、制作過程の開発の在り方。